

数学科学習指導案（略案）

平成21年2月6日（金）2校時
 中学部 数学Cグループ
 男子3名 女子3名 計6名
 場所 中学部 1年教室
 指導者 初村多津子（CT）水野高明（ST）

1 題材 「くらべてみよう」

2 本時の学習(12/16)

(1) 全体目標

- 繰り上がりをとらえて、表示された金額を読んだり、書いたりすることができる。

(2) 個人目標

生徒	個人目標
H. D (2年, 男)	・ 十円や一円硬貨が10枚のときに、位が繰り上がることをとらえて、3けたで表記された金額を読んだり、書いたりすることができる。
M. T (2年, 男)	・ 百円や十円、一円硬貨が10枚以上のときに、位が繰り上がることをとらえて、表記された金額を読んだり、書いたりすることができる。
K. K (2年, 女)	・ 十円や一円硬貨が10枚のときに、位が繰り上がることをとらえて、3けたで表記された金額を読んだり、書いたりすることができる。
T. S (2年, 女)	・ 十円や一円硬貨が10枚以上のときに、位が繰り上がることをとらえて、3けたで表記された金額を読んだり、書いたりすることができる。
I. A (1年, 男)	・ 十円や一円硬貨が10枚のときに、位が繰り上がることをとらえて、3けたで表記された金額を読んだり、書いたりすることができる。
I. M (1年, 女)	・ 十円や一円硬貨が10枚以上のときに、位が繰り上がることをとらえて、3けたで表記された金額を読んだり、書いたりすることができる。

(3) 指導及び支援に当たって

生徒たちはこれまでに、位の違いをとらえて3けたの数字の読み方や表記の仕方を理解してきている。また、前題材「パネルの大きさを考えよう」の学習において、位の違いによる数の大きさもとらえられるようになってきている。さらに、百円、十円、一円の3種類の硬貨で表示された金額を読んだり、書いたりすることができるようになってきている。しかし、一円硬貨や十円硬貨が、10枚またはそれ以上のときに、どのように読んだり書いたりしていいのかわからず混乱している様子が見受けられる。これは、繰り上がりのときの表記や読み方を知らなかったり、等価関係がわからなかったりするからであると考えられる。そこで、本時では、生徒の学習の過程をとらえながら、生徒が十分、思考・操作しながら、位が繰り上がるときの読み方や表記が理解できるように次のような手立てを考える。

必然性を高めるために

学習の開始に、前次の学習を思い出せるように、前回使用した教材・教具を提示したり、本時の学習を言葉で表示したりして、本時の学習への意識付けを行う。また、これまでの学習で取り組んだ問題を再度振り返ることで、生徒自身が前回の学習を踏まえて自分の学習課題をとらえられるようにする。

思考・操作を十分に行うために

学習の中で生徒が十分考えることを大切にする。個別課題では、やり方を初めから教えるのではなく、生徒がどのように考えているのかということを推し量りながら学習状況をとらえていく。正答のみを強く求める生徒には、まずは自分で考えた解答を出すように伝えたとともに机の配置を配慮する。

学習を振り返るために

生徒自身が自分で出した解答がどうだったのか確かめができるように、答え合わせの場面では、生徒が赤鉛筆で記入する。解決の仕方について振り返る際に、どのように考えたのか、どのように解いたのかということの説明を求めたり、言語化して生徒に伝えたりする。また、生徒の理解を支えるために「百の位」、「十の位」などの必要な言葉を言語化したり、一つの位に一つの数字が入ることを視覚的に着目できるようにする。

実践意欲を高めるために

難しい学習課題が続くと意欲が減退するため、問題の難易度を考えて個別課題を作成する。また、繰り上がることに気付いた発言や様子が見られたら称賛し、発展問題に取り組んだり、買物などで使えることを伝えたりする。

(4) 實際

過程	主な学習活動	指導及び支援の手立て	資料・準備
導入 (10分)	1 始めのあいさつをする。 2 前時の学習を振り返る。	• 前回の学習を踏まえて自分の学習課題をとらえられるようにする。	拡大模型硬貨
展開 (25分)	3 本時の学習を知る。 お金を数えよう。 4 個別課題に取り組む。	• まずは自分で考えて解答するように伝えとともに、友達の見えないように机の間を広げるなど場所を配慮する。 • 正答のみを強く求める傾向にある I. Aに対しては、教師と一緒に取り組むことで、解答を出すだけでなく、考え方を学べるように個別で指導する。(ST) • 生徒がどのように考えているのかを推し量りながら、生徒が解答を出すまで学習状況をとらえていく。(CT, ST) • 赤鉛筆を準備するよう言葉掛けをする。	課題プリント
	5 答え合わせをする。	• 生徒の理解を支えるために「百の位」などの必要な言葉を言語化したり、一つの位に一つの数字が入ることを視覚的に着目できるように黒板に枠を表示する。 • 生徒が学習課題を振り返られるように、どう考えたのか、どう解いたのかの説明を求めたり、言語化して生徒に伝えたりする。(CT, ST) • 繰り上がることに気付いた発言や様子が見られたら称賛する。 • 学習したことを活用するために、個別の発展問題に取り組んだり、実際の硬貨を使ってお金を数えたりする。	位の枠 硬貨 発展課題用プリント
終末 (5分)	6 次回の学習の予告をする。 7 終わりのあいさつをする。	• 個別において学習の振り返りを十分行うので、全体では、次回の学習の予告を行う。	

※ CT：チーフティーチャー ST：サブティーチャー

(5) 評価

- 繰り上がりをとらえて、表示された金額を読んだり、書いたりすることができたか。